地域の支えあい活動情報誌

資料９

杉並ぐるる

つなぐ　ひろがる　ささえる

2026年 秋号 Vol.41

住民の買い物を車の送迎でお手伝い

普段行けない遠くのスーパーもOK―「久我山買い物クラブ」

【今月の表紙】送迎車を利用して、スーパーで買い物を楽しんだ利用者とスタッフの皆さん

都営久我山1丁目第2アパート（約280世帯）の住民の皆さんにとって、暮らしの大きな課題は近くに食料品などが買えるスーパーが少ないことです。そこで、同アパートの自治会は今年6月から、毎月1回、第3土曜日に買い物に不便を感じている住民をワゴン車でスーパーまで送迎（3往復）する「買い物定期便」（以後、定期便）をスタートさせました。運営するのは自治会を中心とした「久我山買い物クラブ」で、地元の社会福祉法人杉樹会や杉並区社会福祉協議会（以後、杉並社協）も協力しています。買い物に不便を感じている住民を支援する新たな取組として注目されています。

団地集会室前で定期便に乗り込む利用者

毎回違うスーパーへ

定期便を利用できるのはおおむね65歳以上で、店内で付き添いや介助がなくても自力で買い物ができる人。団地の集会室前で乗車してスーパーまで行き、50分程度買い物をした後、集会室に戻ります。実施日には午前10時発と10時45分発、11時30分発の3便が運行されます。定員は各便とも5人。利用希望者は事前申し込みが必要で、運営協力費として100円を支払います。

行き先のスーパーは毎回違います。事前にスタッフで候補を出し合い、どのスーパーにするか決めています。今後は食料品も買えるホームセンターなども予定しています。

定期便のチラシ

定期便を利用した住民の皆さんは「今は自転車に乗れなくなったので、車の送迎があると助かります」「お米など重いものを買うと、自転車でも帰りが大変。車だと安心です」「行先が決まっているので、事前に店のチラシで買う物を決められました」などの感想を寄せています。

地元企業の「生協」がなくなった

取組の背景には、この地域ならではの事情があります。団地に隣接して電話交換機など通信機器を扱う会社があり、京王井の頭線の久我山駅まではちょっとした企業城下町を形成していました。自治会長の狩野正幸さんは「15年ほど前までは生協（生活協同組合）があって、食料品が安く買えました。会社の事情でその生協がなくなったうえに、玉川上水の両側に2車線ずつの道路と長い横断歩道ができたことで、信号待ちが長くなって久我山駅までが遠くなりました。住民からは『買い物に時間がかかって困る』という声が出始めたのです」と振り返ります。

スーパーで買い物をする利用者

自治会と社会福祉法人が連携

そこで、自治会と杉並社協、ケア24久我山（杉樹会が運営）の3者が2025年、地域住民を対象にしたアンケート調査を行い、その結果に基づいて具体的な買い物に不便を抱える人への支援策を検討してきました。同年12月には久我山駅前のスーパーまでワゴン車で3往復するトライアルを実施したところ、参加住民に好評でしたので、2026年度から正式にスタートさせることになりました。

買い物の後、集会室でおしゃべりする利用者

定期便が実現したのは上記3者の連携があったからですが、特に自治会の熱心な取組が大きな推進力となりました。狩野会長は団地の総会で「自治会の事業としてやりますので、スタッフは役員と理事のボランティアでお願いします」と提案しました。自主運営にこだわり、「住民の方ならどなたでも歓迎です」と呼び掛けています。

ワゴン車と運転手を提供しているのは杉樹会です。同法人常務理事の中田あかねさんは「コロナ前から外出・買い物の移動支援を検討する会（杉並社協主催）に参加していて、何か協力できないかと考えていました」と話されました。スーパーまでの送迎とはいえ、スーパーのどこで降り、乗ってもらうかを事前に調べたり、集合場所や時間調整をしたりと、買い物がスムーズに進むよう気を配っています。

中田さんは「この定期便は利用者には遠足気分のようなところもあり、普段お話されない方同士でお話をされています。その意味では、元々の発想である皆さんの交流、安否確認という役割も果たしていると思います」と話します。

住民同士のつながりを回復させたい

狩野会長によると、かつてこの団地も4階建てで向かい合わせに部屋があり、住民は必ず同じ階段を使っていたため頻繁に会っていて、階が違っても住民同士のつながりがあったといいます。それが団地の建て替えでエレベーターが整備され、コロナ禍も影響して、住民の交流が少なくなったそうです。狩野会長は「定期便は単に福祉サービスとしてやっているわけではありません。こうした取組を通じて住民に交流してもらい、自治会の運営にも参加してもらって住民同士のつながりを強くしていく。それが目的です」と力強く語りました。

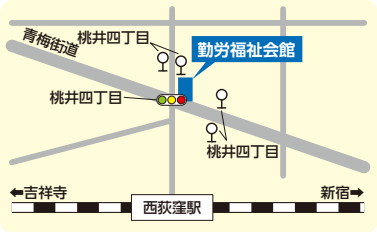
【問い合わせ先】久我山買い物クラブ　狩野
☎03-3332-7033

令和8年度 ささえあいシンポジウム in 杉並（旧たすけあいネットワーク・生活支援体制整備合同イベント）

つながりを育む～「楽しく、自分らしく」～

2026（令和8年）10.22（木）

【時　間】14:00～16:00（開場13:30）
【場　所】勤労福祉会館ホール（杉並区桃井4-3-2）
【参　加】無料　参加希望の方は直接会場へお越しください。
※車いす利用や手話通訳が必要な場合は10月8日（木）までに下記の問い合わせ先までご相談ください。



講　演	「見直したい地域のつながり」　講　師：石田 光規 氏（早稲田大学教授）
取組発表	①「ふれあい散歩～元気なうちから繋がろう～」 発表者：あんしん協力員、ケア24松ノ木 ②「楽しくつなぐ、地域と笑顔 ～あなたの居心地の好い場所・時間を見つけよう！造ろう！荻窪遊ぼう会～」 発表者：荻窪遊ぼう会、ケア24南荻窪
パネルディスカッション	石田 光規 氏、登壇者、 第一層生活支援コーディネーター 白井 秀世 氏（杉並区社会福祉協議会）

【主　催】杉並区・杉並区社会福祉協議会
【お問い合わせ】杉並区保健福祉部 高齢者在宅支援課
高齢者見守り連携係・フレイル予防推進係
TEL：03-3312-2111（代表）　内線3245・3224

ウェブサイトはこちら→

地域に関心がある人と地元の活動団体をマッチング
―井草まちカレッジ―

今、地域で共通の課題となっているのは、地域活動の担い手が不足していること。これまで活動を続けてきた人たちは高齢化が進みつつある一方で、新たに活動に参加する人は多くありません。こうした状況を少しでも打開したいと、井草地域では地域の活動者と参加を希望している人の“出会いと学びの場”になる「井草まちカレッジ」（3回シリーズの講座）を6～7月に井草地域区民センターで開催しました。

グループワークの進め方などを説明するスタッフ

地元活動団体と参加者が語り合う

開催したのは杉並区社会福祉協議会（以後、杉並社協）とケア24上井草、ケア24下井草（いずれも地域包括支援センター）の3者で構成する「地域デビュー講座実行委員会」です。講座の内容は第1回（6月2日）がオープニングトーク「身近な関係から始める地域づくり」、第2回（6月16日）がワークショップ「ラウンドテーブルミーティングをやってみよう」、第3回（7月14日）はワークショップ「やってみたいを語ろう」です。

第2回のワークショップでは、講座参加者と地域活動団体、実行委員会スタッフが4つのグループに分かれて話し合いました。「いぐさの赤い椅子」、「お芝居やさん」、「上井草結いの会」など8つの活動団体（個人を含む）がそれぞれの取組を紹介し、参加者は自分の経験や受講の動機などを話しました。

地域でのつながりを持ちたい―参加者

偶然、まちの掲示板で講座のチラシを見て参加したという若い女性は、「子どもの頃井草に住んでいたのですが、父親の仕事で国内外を転々としたため、転勤先ではご近所付き合いがあまりありませんでした。今住んでいるこの地域では、つながりを持ちたいと思いました」とその動機を明かしました。

子どもの頃から日本舞踊をしているという80代の女性は「この地域でお役に立てることがあれば、日本舞踊を文化活動としてやっていきたい。人のためのボランティア精神ということだけでなく、自分のためにも地域の人と関わっていきたい」と話していました。

一回限りでなく、フォローアップも

ある開催スタッフは「地域デビュー講座はこれまでも幾つか企画したことがありますが、一度きりで終わってしまい次につながらないという課題がありました」と振り返ります。そこで今回は、講座終了で完結するのではなく、その後も参加者が地元団体の活動状況を見学したり、実際に活動に参加したりするプログラムを用意しました。その結果、参加者の中には地元の活動と繋がり、地域活動の一歩を踏み出した人もいるそうです。

杉並社協によると、今後は実践編として「井草まちカレッジ同窓会（二歩目の会）」を予定しているほか、「働く現役世代の地域デビューを考える会」という新しい企画も検討しているそうです。

前記のスタッフは「今回のような取組を他の地域でも『やってみようか』と思ってもらえるとうれしいです。そして各地域に『まちカレッジ』の取組が広がっていくといいなと思います」と期待を寄せていました。

【問い合わせ先】
杉並区社会福祉協議会　地域福祉推進係
☎03-5347-1017

「いぐさの赤い椅子」について説明する活動団体代表

生活支援体制整備通信 杉並ぐるる
〈編集・発行〉杉並区保健福祉部高齢者在宅支援課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1　電話03-3312-2111（代表）
過去の「杉並ぐるる」は右の二次元コードよりご覧いただけます。
2026年9月発行